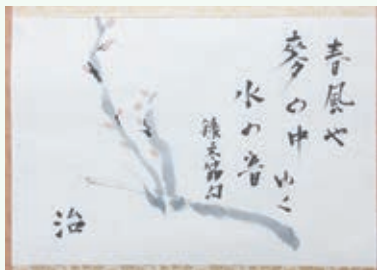


三鷹市収蔵・太宰治資料展 — 津島家寄託資料を中心に —

☎ 三鷹市美術ギャラリー ☎ 79-0033

同ギャラリー内に昨年12月にオープンした「太宰治展示室 三鷹の此の小さい家」では、開設記念企画として、太宰が懇意にした編集者・野平健一の結婚祝いに贈った書(写真)を2月28日(日)までの期間限定で公開中です。3月9日(火)からは資料を一部展示替えし、太宰の師・井伏鱒二がしたためた短冊など、太宰の交友関係がうかがえる資料を展示します。小さいながらも見どころ満載の同展示室をお楽しみください。



「春風や 麦の中ゆく 水の音」
昭和23年3月 長良川画廊蔵

☎ 午前10時～午後6時
◆休館日 月曜日(月曜日が休日の場合は開館し、翌日と翌々日が休館)
☎ 同展示室(下連雀3-35-1三鷹コラル5階 三鷹市美術ギャラリー内)
¥ 観覧無料
☎ 期間中会場へ

天文・科学
情報スペース
企画展

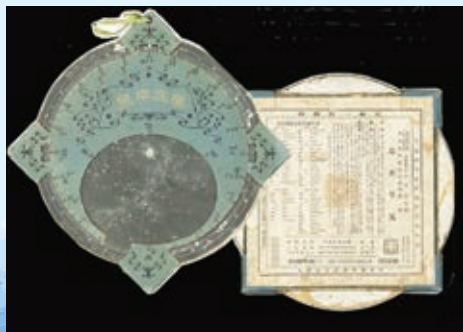
「手の中の星空 — 星座早見盤の世界 —

☎ 同施設(下連雀3-28-20
三鷹中央ビル1階) ☎ 26-9951

時間と場所を問わず、いつでも星空散歩を楽しめるツール、それが星座早見盤です。今回の企画展では、さまざまな星座早見盤の実物展示を通して、その奥深い魅力をお伝えします。

☎ 4月4日(日)までの午前11時～午後6時30分(月・火曜日、祝日休館)

☎ 期間中会場へ



明治40年発行の星座早見盤

三鷹の森アニメフェスタ2021

「アニメーション古今東西 その17」

3月6日(土)

午前10時30分～午後5時ごろ
芸術文化センター星のホール

☎ 三鷹の森ジブリ美術館 ☎ 0570-055777(ごあんないダイヤル)、市芸術文化課 ☎ 内線2912

三鷹の森ジブリ美術館が厳選する古今東西の傑作アニメーションを上映します。アニメーションの面白さと奥深さをお楽しみください。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場定員の50%以下で開催します。また、感染状況によっては中止する場合があります。

☎ 第一部・第二部ともに100人程度(1組4人まで、市外在住者は1組2人まで。1人での申込も可)

☎ 2月19日(金)(必着)までに代表者の必要事項(11面参照)・参加人数・参加者全員の氏名と年齢・希望する部(第一部・第二部のいずれか)を「〒181-0013下連雀1-1-83三鷹の森ジブリ美術館『三鷹の森アニメフェスタ2021』係」へ(希望する部ごとに1組1通。申込多数の場合は抽選)

※当日席はありません。

※当選者には2月25日(休)以降に招待状を送付します(当落の電話確認は不可)。

第一部

「海を描いたアニメーション」午前10時30分～午後0時30分ごろ

①『海獣の子供』主題歌：米津玄師『海の幽霊』MV



©2019 五十嵐大介・小学館/
『海獣の子供』製作委員会

(2019年/4分/日本)

見る者すべてをのみ込んでいく、長編映画『海獣の子供』の圧倒的なアニメーション表現と、米津玄師書き下ろしの主題歌が融合した圧巻のミュージックビデオです。

②『An Object at Rest』

(セス・ボイデン/2015年/6分/アメリカ)

これはある石のお話。最初は大きな山だった石は、長い年月によって、どんどんと形を変えていきます。そしてある日、ついに人間と出会って…。



©Seth Boyden



©ROBOT

③『つみきのいえ』

(加藤久仁生/2008年/12分/日本)

上へ上へと建て増した海上の家で、家族との思い出に囲まれながら一人で暮らすおじいさん。ある日、家の中にまた水が入ってきて…。



©SMF/MOVCO

④『人魚姫』(イワン・アクセンチュク/1968年/29分/ソ連)

アンデルセンの童話「人魚姫」を、手書きとカラージュによる豊かな動きや、色鮮やかな映像で表現した作品です。

⑤『人魚』

(手塚プロダクション/1964年/9分/日本)



©手塚プロダクション

空想を禁じられた国で人魚を夢想した少年は、逮捕され、空想の力を奪われていきます。手塚治虫が、行き過ぎた管理教育へ石を投じた作品です。

⑥『幽霊船』

(大藤信郎/1956年/11分/日本)

昔、黄海での出来事。貴族の船を海賊船が襲い、若い貴族と姫は哀れな最期を迎えました。時を経て、再び海賊船がこの海に巡り来ると、あの貴族の幽霊船が現れ…。



©映像文化製作者連盟

⑦『トムとジェリー海の底すばらしい』

(ウィリアム・ハンナ、ジョセフ・バーベラ/1949年/8分/アメリカ)

誰もが知っているキャラクター「トムとジェリー」。ネコのトムとネズミのジェリーが、毎回あらゆる追いかけっこを繰り広げるドタバタコメディアニメ。

©1941 Turner Entertainment Co.

第二部

『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』

特別上映と南谷真鈴さん

トークショー 午後2時30分～5時ごろ

19世紀ロシアの貴族の娘であるサーシャは、1年前に北極探検に出たまま行方が分からなくなった祖父のことをいつも想っていた。ある日、祖父がたどった航路を示すメモを見つける。再び探索船を出すことを誰からも聞き入れてもらえなかったサーシャは、自ら祖父を探す旅に出掛ける。



(レミ・シャイエ/2015年/81分/フランス・デンマーク)
©2015 SACREBLEU PRODUCTIONS

上映後は、七大陸最高峰日本人最年少登頂者で現役大学生の南谷真鈴さん(写真)に、上映作品とご自身の体験などについて伺います。

